

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市水とみどりの基本計画推進協議会			
事務局 (担当課)	環境共生部水みどり環境課 電話 042-769-8242 (直通)			
開催日時	平成 26 年 3 月 7 日 (金) 15 時 00 分 ~ 17 時 00 分			
開催場所	相模原市役所緑区合同庁舎 3 階 会議室 3 - 2			
出席者	委員	7 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	7 人 (環境共生部長、水みどり環境課長 他 5 人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p style="text-align: center;">議 題</p> <p>1 生物多様性地域戦略の策定について</p> <p>2 水とみどりの基本計画の中間見直しについて</p> <p>3 その他</p>			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(委員の発言、 事務局の発言)

相模原市環境共生部長のあいさつに続き、相模原市水とみどりの基本計画推進協議会委員長があいさつし、議事に入った。

- 1 生物多様性地域戦略の策定について
- 2 水とみどりの基本計画の中間見直しについて
- 3 その他

(1) 生物モニタリング調査について

事務局より一括して説明を行った後、質疑応答及び意見交換を行った。

生物多様性地域戦略(以下「地域戦略」という。)における「環境基本計画及び水とみどりの基本計画との関連」について、図と説明文とが合致していないように感じられ、分かりづらい。

水とみどりの基本計画(以下「基本計画」という。)と地域戦略の基本理念は基本的には同じと考えるが、施策としては、生物多様性の主流化など現行の基本計画にはない新規の事業も考えられる。そのため、図では、基本計画と地域戦略は完全一致していないものである。

生物多様性について、国家戦略と地域戦略の違いを理解しやすいように整理した方がよい。

地域戦略は、相模原市域内を対象とせざるを得ないが、水系や動物の行動範囲等は市域外にわたるため、生物に関するバックデータは神奈川県など広範に収集し、整理すべきである。

「生物がいる」ということだけでなく、「なぜ居るのか」という情報も必要である。

生物のデータは、施策に展開するか否かを見極めるためにも必要である。

多くの市民がデータにアクセスできる環境を作ることは大切なことと考える。データと施策がマッチングすれば最良である。

自然保護活動を行う市民の中でも、思いや考え方は人それぞれであるため、具体的な施策に結び付けていくには、なかなか難しいと思われる。

指標種やモニタリングの対象種の選定の考え方として、例えば鳥類の頂点であるとして「オオタカ」のみに焦点を絞ってしまうことは多様性ではない。「スズメ」や「ツバメ」は、結果として現在は減少しているが、これらの鳥が10年、20年後にどうようになっているかということもデータとして重要なものである。

基本計画の中間見直しの基本方針（案）における「社会情勢の変化」では、リニア中央新幹線のことも挙げられると思われる。

モニタリング調査の地域区分は、4つの大きな流域区分ではなく、樹林地など土地利用の状況や、スポット的にするなど見直しをした方がよい。

次回の会議に、今年度に行っている自然環境基礎調査の調査結果など区分を検討するための材料となる資料を提出する。

3 その他

本協議会の会議録の承認については、委員長の承認を各委員の承認に代えること確認した。

事務局より次回の会議を平成26年5月中旬に開催することを伝えた。

以 上

相模原市水とみどりの基本計画推進協議会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田畑 貞壽	千葉大学名誉教授、(公財)日本自然保護協会顧問	学識経験者	出席
2	田淵 俊人	玉川大学農学部生物資源学科教授	〃	出席
3	岡部 誠	(公財)相模原市みどりの協会理事長	関係団体	出席
4	石田 幸彦	桂川・相模川流域協議会監事	〃	出席
5	高橋 孝子	NPO法人相模原こもれび副理事	〃	出席
6	秋永 真里子	NPO法人境川の斜面緑地を守る会理事	〃	出席
7	鈴木 史比古	津久井郡森林組合副組合長理事	〃	出席
8	熊谷 達男	「小松・城北」里山をまもる会副会長兼会計	〃	欠席